

薬学演習 3

| | | | |
|--------------|--|--------|------------|
| 責任者・コーディネーター | 神経科学講座 駒野 宏人 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 構造生物薬学講座、有機合成化学講座、天然物化学講座、微生物薬品創薬学講座、機能生化学講座、臨床医化学講座、衛生化学講座、細胞病態生物学講座、分子細胞薬理学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座 | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数 | 演習 19.5 時間 |
| 期間 | 後期 | | |
| 単位数 | 1 単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

薬学演習 3 では、2 学年後期の基礎薬学分野、医療薬学分野、衛星薬学分野の講義科目で学んだ知識の理解を深めるための演習を行う。

・一般目標（GIO）

2 学年後期の講義で学習した基礎薬学分野（物理化学 3、有機薬化学 2、有機構造解析 1、機能形態学 2、感染症学、生化学 3、細胞生物学 2）、医療薬学分野（薬理学 2、薬物動態学 1）、衛星薬学分野（食品衛生学、環境衛生学）について演習を活用しながら知識を修得する。

・到達目標（SBO）

- （物理化学 3）
 - ・反応速度の分子論的描像を説明できる。
- （有機薬化学 2）
 - ・代表的な炭素－ヘテロ原子単結合をもつ有機化合物の構造、命名、性質および反応について説明できる。
- （有機構造解析 1）
 - ・有機化合物の構造解析を行うために必要な基本的知識、技能を修得する。
- （感染症学）
 - ・ウイルス、細菌、その他の微生物が引き起こす代表的な疾患に関する基本的知識を修得する。
- （生化学 3）
 - ・飢餓状態・飽食状態の代謝の特徴について説明できる。
 - ・栄養成分から生体エネルギーを産生する機構を概説できる。
- （細胞生物学 2）
 - ・細胞内情報伝達や細胞間コミュニケーションに関する知識を基礎とし、発生、細胞分化などに関して説明できる。
- （機能形態学 2）
 - ・循環器系の構造と機能に関する基本的知識を修得する。
- （薬理学 2）
 - ・循環器疾患治療薬の作用機序を例を挙げて説明できる。
- （薬物動態学 1）
 - ・薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）を概説できる。

- ・血中薬物濃度の変化を解析することの意義を説明できる。
(食品衛生学)
- ・食品衛生学に関する基本的知識を修得する。
(環境衛生学)
- ・演習時までに環境衛生学の講義で学んだ内容について、その概要を説明できる。

・ 講義日程

(矢) 東 102 1-B 講義室

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|-------|----|----|------------|------------|--|
| 9/9 | 火 | 3 | 構造生物薬学講座 | 関 安孝 准教授 | TBL 形式の演習によって、物理化学3で学んだ知識の理解を深め定着を行う。 |
| 9/16 | 火 | 3 | 構造生物薬学講座 | 関 安孝 准教授 | TBL 形式の演習によって、物理化学3で学んだ知識の理解を深め定着を行う。 |
| 9/19 | 金 | 3 | 有機合成化学講座 | 稲垣 祥 助教 | 同時期に開講される有機薬化学2の講義内容について、その理解度を確かめる。 |
| 9/26 | 金 | 3 | 薬物代謝動態学講座 | 幅野 涉 准教授 | 同時期に開講される薬物動態学1の講義内容と深く関連する演習を行い、理解を深めさせる。 |
| 9/30 | 火 | 3 | 機能生化学講座 | 中西 真弓 准教授 | 栄養成分から生体エネルギーを産生する機構に関する演習を行う。 |
| 10/7 | 火 | 3 | 臨床医化学講座 | 大橋 一晶 准教授 | 栄養成分から生体エネルギーを産生する機構に関する演習を行う。 |
| 10/7 | 火 | 4 | 微生物薬品創薬学講座 | 上原 至雅 教授 | 演習等により、同時期に開講される感染症学の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |
| 10/14 | 火 | 3 | 細胞病態生物学講座 | 奈良場 博昭 准教授 | 演習等により、同時期に開講される細胞生物学2の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |
| 10/14 | 火 | 4 | 神経科学講座 | 前田 智司 准教授 | 演習等により、同時期に開講される機能形態学2の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |
| 12/2 | 火 | 3 | 分子細胞薬理学講座 | 弘瀬 雅教 教授 | 演習等により、同時期に開講される薬理学2の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |
| 12/2 | 火 | 4 | 天然物化学講座 | 藤井 勲 教授 | 演習により、有機構造解析1で学んだ知識の確認と定着を図る。 |

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|--------|-----------|---|
| 12/9 | 火 | 3 | 衛生化学講座 | 名取 泰博 教授 | 演習等により、同時期に開講される環境衛生学の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |
| 12/9 | 火 | 4 | 衛生化学講座 | 杉山 晶規 准教授 | 演習等により、同時期に開講される食品衛生学の講義で学んだ知識の理解度を深める。 |

・成績評価方法

| |
|---|
| <p>(物理化学 3) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(有機薬化学 2) 演習中のテストで評価する。</p> <p>(有機構造解析 1) 演習中の成果物もしくはレポートで評価する</p> <p>(感染症学) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(生化学 3) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(細胞生物学 2) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(機能形態学 2) 演習中のテストで評価する。</p> <p>(薬理学 2) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(薬物動態学 1) 演習中の成果物のみで評価する。</p> <p>(食品衛生学) 演習中の成果物のみで評価する</p> <p>(環境衛生学) 中間試験と定期試験で評価する。</p> |
|---|

・予習復習のポイント

| |
|-----------------------------------|
| <p>該当する科目の講義資料・教科書の予習をしておくこと。</p> |
|-----------------------------------|